

福島原発事故 「脱原発社会」の構築へ 「阻止ネット」が集会とデモ

集会で「脱原発宣言」採択

「今も、爆発した原発
建屋周辺からは1時間あ
たり2億ベクレルほどの
放射能(この数値で事故
直後の400万分の1)
が流出」。

生活クラブ・パルシス
テム・グリーンコープな
どの生協や大地を守る
会、取引生産者などで構
成する「六ヶ所再処理
工場」に反対し放射能汚
染を阻止する全国ネット
ワーク(略称・阻止ネッ
ト)は9月19日、東京・
千代田区の日本教育会館
で「ストップ再処理20
11」脱原発宣言」の集
会を開催し、講演した原
子力資料情報室の澤井正
子氏が福島第一原発事故
の現状について語った。
澤井氏は、「脱原発社
会への道すじ」福島第一

原発事故から私たちは何
を学ぶのか」と題して講
演し、新幹線の車内での
計測でもトンネルを抜け

ると放射能が急に高くな
るといふ福島県の現状に
ついて報告。
原発と火力・水力発電
の発電システムの違いか
ら説明し、原発は「放射
能を大量に抱えたまま運



被災した水産業者の深刻な現状を報告する高橋英雄社長



明治公園の脱原発5万人集会に合流し、新宿方面へパレード

転する大きなヤカン」で、
原子炉内の核分裂で発生
した熱エネルギーの3分
の2を海水中に廃棄して
いる非効率な発電システ
ムである、と指摘。
事故後の「ベント」に
より気体として流出した
大量の放射能が雨などで
太平洋に落ち、海の汚染
が広範囲に拡がっている
ことにも言及した。

代子理事長、生活クラブ
静岡の赤堀ひろ子顧問
グリーンコープかごしま
の川原ひろみ理事長、生
産者からはJA新いわて
短角牛肥育部会、宮城県
石巻市の高橋徳治商店が
脱原発への取り組みや放
射能による風評被害の現
状などについて報告。

業者仲間が 「無残」な死

高橋徳治商店の高橋英
雄社長は、震災と原発事

故の風評被害などで将来
への希望が持てず、同じ
水産業に携わる仲間間で1
人は首つり自殺、1人は
「割腹」自殺をしたとい
う厳しい現実を語り、「忘
れてよいことと、忘れて
はいけないことがある。
被災地の厳しい現実を忘
れないで、今後も粘り強
い反対運動をお願いしま
す」と、会場の参加者に
訴えた。

集会ではグリーンコー
プ共同体の田中裕子代表
理事が「阻止ネット脱原
発宣言」を読み上げ、参
加者全員で採択。今後は
「脱原発」を組織とし
ての活動目的に掲げ、広
範な国民を巻き込んだ脱
原発社会の構築をめざし
ていく。

閉会挨拶したパルシス
テム連合会の山本伸司理
事長によると、同連合会
では組合員の9割が脱原
発の意思を表明。今後は、
阻止ネットを中心に全国
の思いを集約し、確実な
再生可能エネルギーへの
転換に向けて社会をリ
ードする運動の構築が必要
なことを強調した。